

郡山女大附高 桑名 恒
 ○河島シツエ
 渡辺 悦子

1. 私達の身体は複雑な形状をもつと同時に個人差が大きく、幾何学の相似形とは程遠い存在となっている。従ってこの身体を美しく包み、外界の刺戟から身を守るための衣服をデザインするために行う計測を、1次元の広がりだけのメジャーテープで行うこと自体が無理であり、これを処理するための技法として仮縫いや立体裁断が行われている。私達はこの問題を解決するため、3次元の空間を占め複雑な形の身体を、2次元の広がりof布地その他のもので包むことから、これと同じ2次元の広がりを持つ計測装置により正しくとらえることを考えた。

2. 柔軟であるが各部に伸縮のない2次元の広がりを持つ材料、たとえば縦横に金属糸を交ぜて織った布に座標面をえがき、後身頃を測定する場合この座標面の原点を第7頸椎骨上に置き正中線をY軸にとり、体表面に接着させてゆくと後身頃の形が直接正確に測定出来る。またダーツが必要な部分にはシワが出る故この部分を切開き、その重なりを測定すればダーツの諸元も正しく計測できる。前身頃その他も同様座標軸を適当に求め測定し、これら座標面を組合せ各部の所要寸法を正しくとらえる方法である。

3. 被服を構成する材料と同じ2次元の広がりをもつ計測用具により測定するため、衿ぐり、袖ぐり曲線やダーツ等の細かい部分がよく計測でき、特に特異体型の人の被服製作にすぐれた効果が得られた。